



「IISIA プレップ・スクール」授業シラバス

- 【講師名】： 原田武夫
【科目名】： 「情報リテラシー」、「情報リテラシー2/総合」
【日程】： 4月25日（金）、8月28日（木）

授業概要

本物の「情報リテラシー」は「金融資本主義の歴史的な展開に対する深い洞察」と「人脈の織り成すネットワークに対する冷静な分析（ネットワーク分析）」とあわせて”新しい教養”を成している。しかし、この”新しい教養”は多くの社会において支配する者、統治する者だけが世襲する知であったため、一般教育では一切学ぶことができない仕組みとなっている。

この授業は歴史における”秘奥”とも呼ぶべき本物の「情報リテラシー」を体得することを目的としている。受講者はマーケットやそれを取り巻くさまざまな情勢変化に目をとられることなく、真に必要な情報とはいったい何なのかを最終的に体得することになるであろう。ただし、そのための山は険しく、また谷も深い。とりわけ一般教育ではますます軽視されている近現代における金融資本主義史の学習は必須であり、受講生はこの関連で山のような関連史料を読み解くことを求められるかもしれない。

しかし、そうした苦難を乗り越えた先にはじめて道はひらける。この授業では、マーケットとそれを取り巻く国内外の最新情勢、および今後の見通しについては一切言及しない（したがって”為替見通し””株価動向”について聴講を希望される方にはご遠慮願いたい）。より重要なのは、今ここで生じているマーケットの動向はその一つ一つがこれまで数百年間にわたって世界史で展開してきた金融資本主義の一コマであるという認識を得ることなのであって、その認識を共に勝ち得ることのできた受講生同士で情報交流のためのネットワークを作り上げることなのである（したがって、単に座学だけではなく、グループワークも課すことになる）。そうすることで私たちはようやく明日の日本を創り上げる、騙されない日本人、すなわち「新しい中間層」へと脱皮することであろう。そうした志ある受講生の参加を心より望んでいる。

授業のねらい

- ・過去に「演出」されたシナリオの検討を通じて、「現代金融資本主義」という枠組みを理解する。
- ・公開情報の扱い方、その解釈の技術を知り、体得する。
- ・グループ・ワークを通じ非公開情報の流通を前提とする人脈を形成する。



推薦図書・参考文献

(教科書指定、授業理解に不可欠)

—拙著『仕掛け、壊し、奪い取る アメリカの論理 マネーの時代を生きる君たちへ —原田武夫の東大講義録—』ブックマン社、2007年

—同『金融マーケットを先読みせよ 2008年 世界と日本経済の潮目 —メディア情報から読み解くマネーの潮流—』ブックマン社、2008年

—同『騙すアメリカ 騙される日本』ちくま新書、2005年

(各人でダウンロードを強く推奨する文書。ただし、かなり大部なので要注意)

—"Open Source Intelligence" (US Army)

<http://www.fas.org/irp/doddir/army/fmi2-22-9.pdf#search='opensource%20intelligence%20army%20department'>

—"Open Source Intelligence (OSINT): Issues for Congress" (US Congressional Research Service)

http://assets.opencrs.com/rpts/RL34270_20071205.pdf

—"NATO Open Source Intelligence Reader" (Headquarter, NATO)

http://www.oss.net/dynamaster/file_archive/030201/254633082e785f8fe44f546bf5c9f1ed/NATO%20OSINT%20Reader%20FINAL%202011OCT02.pdf

—"Blogs and Military Information Strategy" (US Joint Special Operations University)

http://www.au.af.mil/info-ops/iosphere/iosphere_summer06_kinniburgh.pdf

(参考図書)

—拙著『北朝鮮 vs. アメリカ』、ちくま新書、2008年

—北岡元『インテリジェンス入門 利益を実現する知識の創造』慶応義塾大学出版会、2003年

—Tony Matthews, *Shadows Dancing: Japanese Espionage Against the West 1939-1945*, St. Martin's Press Clark, 1994

—J. Ransom Clark, *Intelligence and National Security*, Praeger Security International, 2007

—中田安彦『世界を動かす人脈』講談社現代新書、2008年

—小谷野敦『日本の有名一族 近代エスタブリッシュメントの系図集』幻冬舎新書、2007年

—橘玲『マネーロンダリング入門 国際金融詐欺からテロ資金まで』幻冬舎新書、2006年

—水野和夫『人々はなぜグローバル経済の本質を見誤るのか』日本経済新聞出版社、2007年

—ウィリアム・E・ロスチャイルド『GE 世界一強い会社の秘密』インデックス・コミュニケーションズ、2007年

—ハーバート・フェイス『帝国主義外交と国際金融 1870 - 1914』筑摩書房、1992年



【講師名】： 廣瀬 陽子
【科目名】： 「国際政治・地域情勢」
【日程】： 5月30日（金）

授業概要

日々変動する国際情勢は、政治のみならず広義の「文化」や経済・金融と密接に結びついています。とりわけ、各地で発生する紛争は、民族問題・宗教問題に加えて、エネルギー供給や資源利権の問題をしばしば背景としてもっています。本講では、地域紛争を例にとり、「旧ソ連圏」と一括してイメージされがちなロシアと周辺諸国の複雑な関係を解きほぐす作業を通じて、「国際情勢」の多層的な把握の仕方を指導していきます。

また、国際情勢を考えるにあたり、どのようにニュースを読み解き、どのようにメディアに接するべきか、といった点も扱います。

授業のねらい

- ・ケース・スタディを通じ、国際情勢の多層的な思考法を身につける。
- ・国際ニュースを読み解く際に留意すべきポイントを押さえる。

推薦図書・参考文献

- ―拙著『旧ソ連地域と紛争：石油、民族、テロをめぐる地政学』慶應義塾大学出版会、2005年
- ―同『強権と不安の超大国・ロシア―旧ソ連諸国から見た「光と影」』光文社新書、2008年
- ―廣瀬他編著『コーカサスを知るための60章』明石書店、2006年
- ―拙稿「BTC パイプラインがもたらす南コーカサス地域への政治・経済的影響」名古屋大学国際協力研究科『国際開発研究フォーラム』31号、2006年、1-21頁
- ―拙稿「アゼルバイジャンから見た「9.11」」『学際』第19号（2006年11月30日）、29-37頁
- ―久保慶一『引き裂かれた国家―旧ユーゴ地域の民主化と民族問題』、有信堂、2003年
- ―高橋清治『民族の問題とベレストロイカ』平凡社、1990年
- ―月村太郎『ユーゴ内戦―政治リーダーと民族主義』、東京大学出版会、2006年
- ―田畑伸一郎・末澤恵美編『CIS：旧ソ連空間の再構成』国際書院、2004年
- ―池本修一、岩崎一郎、杉浦史和・編著『グローバリゼーションと体制移行の経済学』文眞堂、2008年
- ―マイケル・T・クレア（斉藤裕一訳）『世界資源戦争』廣済堂出版、2002年
- ―リンダ・マクウェイグ（益岡賢訳）『ピーク・オイル―石油争乱と21世紀経済の行方』作品社、2005年
- ―P・W・シンガー（山崎淳訳）『戦争請負会社』日本放送出版協会、2004年
- ―高木徹『ドキュメント 戦争広告代理店 情報操作とボスニア紛争』講談社、2002年
- ―ジョン・J・ミアシャイマー、スティーヴン・M・ウォルト（副島 隆彦訳）『イスラエル・ロビーとアメリカの外交政策1・2』講談社、2007年



【講師名】： 菊地 正彰
【科目名】： 「企業と金融」
【日程】： 6月20日（金）

授業概要

学生の皆さんにとって、どの企業を志望するかは重要な問題でしょう。けれども自分が行きたい企業の本当の姿は、説明会に参加するだけではわかりません。企業の自己PRに流されず、自分自身でその会社がどんな会社なのかを判断する力を身につける必要があります。そこで本講では「企業の成績表」といわれる財務諸表（決算書）を扱います。事前いくつかの企業の決算書を配布し、その「意味」をまずは自分たちで考えてもらいます。それを踏まえて授業内では会計の手法をベースに、決算書の「読み解き方」を指導します。この授業を通じて、自分で企業の本当の姿を見極める力を身につけていただきたいと思います。

授業のねらい

- ・決算書を正確に読むための知識・技術を身につける。
- ・企業の本当の姿を、イメージではなく数字に基づいて把握する技術を学ぶ。

推薦図書・参考文献

- 望月実、花房幸範『有価証券報告書を使った決算書速読術』阪急コミュニケーションズ、2008年
- M. E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社、1995年
- ジョン・ミクルスウェイト、エイドリアン・ワールドリッジ『株式会社』ランダムハウス講談社、2006年
- O. Ray Whittington, Patrick R. Delaney, *Wiley CPA Exam Review 2008 Financial Accounting And Reporting*, John Wiley & Sons Inc, 2007
- 同, *Wiley CPA Exam Review 2008 Auditing And Attestation*, John Wiley & Sons Inc, 2007
- 同, *Wiley CPA Exam Review 2008 Regulation*, John Wiley & Sons Inc, 2007
- 同, *Wiley CPA Exam Review 2008 Business Environment and Concepts*, John Wiley & Sons Inc, 2007



【講師名】： 川上 純子
【科目名】： 「金融英語」
【日程】： 7月25日（金）

授業概要

マネーの動きを把握するためには、現代金融の中心地である英米メディア記事を日々チェックするのが必須の作業といえます。その際クリアしなければならないのが、金融記事に独特の英語です。本講では、スピーディーかつ正確に英文金融記事を読解していくための技術を、演習形式で指導します。

事前に英文記事をワードファイルで配布し、記事全体の理解と指定部分の日本語訳作成を授業までの課題とします。この段階で語彙や固有名のチェックを行い、自分なりに内容を把握し、指定個所の和訳を行っておいてください。

授業には、当該ファイルを印刷したものと、部分訳を持参してください。受講生の理解を確認しながら、英文金融記事を深く読み込むためのポイントを提示していきます。

また、授業では「金融英語」の理解に役立つツールもご紹介します。

授業のねらい

- ・英文金融記事の読解を通じて、英語メディアからの正確な情報収集技術に習熟する。
- ・金融英語を読むうえでのポイント、役に立つサイトなどの知識を身につける。

推薦図書・参考文献

<新聞・雑誌>

- Financial Times
- The Economist

<辞書>

- 『ランダムハウス英和大辞典』（小学館）
- 『リーダーズ英和辞典』（研究社）
- 『リーダーズ・プラス』（研究社）
- 石山宏一、岩津圭介『ジャンル別 トレンド日米表現辞典 第4版』（小学館）

<一般書>

- 柴田真一『金融英語入門』東洋経済新報社、2004年
- 同『使える金融英語100のフレーズ』東洋経済新報社、2005年
- ジョン・ミクルスウェイト、エイドリアン・ウールドリッジ『株式会社』ランダムハウス講談社、2006年
- ビル・エモット、ピーター・タスカ『日本の選択』講談社インターナショナル、2007年